



担いでみました。
—それでもマツは
起きません。



布団に入れました。
ホ
—それでもマツは
起きません。

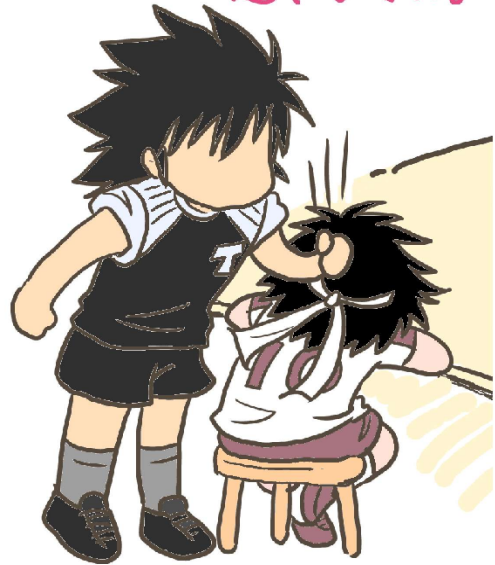


オリーブオイルを効かせて
肉を焼いて
みます。



ごはんが出来ました。

なぐってみました。
—それでもマツは
起きません。



ハチマキを
引っ張りました。
—それでもマツは
起きません。



おやすみ
マツ



…それでも
マツは、
起きません。

おやすみマツ
—完—

おまけ。

「なんだってオレの朝飯こんなに冷めてんだよッ!」
「うるせー!俺なんて朝飯ぼっちだったんだからな!」
「んだよ、冷める前に起こしてくれりゃ良かったんじゃねえか!」
「それでもマツは起きません、だたくせにどの口が…」
「なんだそりゃ、「大きなかぶ」かよ。オレ絵本かよッ」
「言っとくけどな、あ〜んなことやこ〜んなことしても
全くピクリとも、1ミリも目えあけなかったんだからな。
朝飯冷めたのは自業自得だ。」
「なっ…!!!てめ、オレが起きないのをいいことに…!?
見損なったぜ日向ぁ!!!」
「ああん!?期待されるほど何もしてねえよ!
お預けだったんだよ!バカヤロ!
くろう、ちゅーくらいしてやればよかった!
寧ろ謝れ。冷めちまった俺の朝飯に!そして俺に!!!」
「〜〜たく、オトコがちいせえことでぐだぐだ言ってるじゃねえよ。
ハイハイ、いいからホラ、オレの味噌汁早くあっためてくれよ。」
「てめえ、何様だっ!自分でやろうとか思わねえのか!」
「何いってんだ、日向の飯はお前が作るから旨いんだろ。
オレがあつためなおしたら味噌汁沸騰するぜ?」

※タイトル※

おはよう、朝ごはん出来てるよ。…とカーテンを開けてあげたかった日向さん。



オチがなさ過ぎてごめんなさい…